

# 手賀沼が海だったころ

2008年4月15日  
第16号 Page 1

発行人 青山 茂  
編集人 久川玄二郎  
柏市松ヶ崎791-3  
〒277-0835  
TEL&FAX  
04-7134-8833

## 手賀沼と松ヶ崎城の歴史を考える会会報

### ご挨拶

### 前会長 川上 利男

平成11年に「手賀沼と松ヶ崎城の歴史を考える会」を設立以来、この間、古墳、城址、その他、時代を限定せずに地域の歴史をいろいろと勉強して参りました。これからもそういった活動を続けていきたいと思っています。

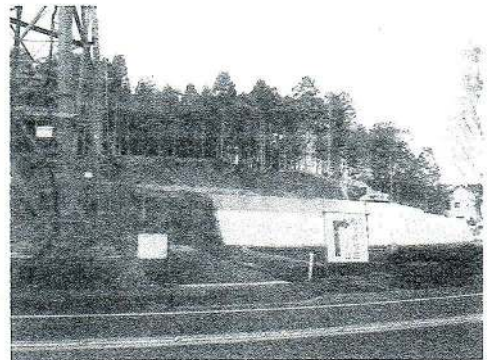
松ヶ崎城は、近くの方は心配されているのではないかと思います。北側の斜面が造成されたようになっていて、現在は道路を作っています。地主さんからは上の部分は「当面そのままで開発する意思は無い」と度々伺っていますのでその点心配していません。

私達があそこを地域のシンボルとして考えているのは、遺跡が重複しているからです。古くは1万年前の縄文遺跡から、5世紀から6世紀頃の古墳、近世の城郭、近代に至っては江戸末期から明治にかけての神社と多くの遺跡を1箇所で見ることが出来ます。柏では他に類例が無い貴重な場所ということになっています。柏の至る所に遺跡はあるはずですが、現在すでにあるとわかっている柏の原点とも言うべき所ですから何とか

残していきたいと思っています。私有地ですからそう簡単に残せないのですが、残しながら勉強していきたいと思っています。

よく「柏には歴史が無い、あっても幕府の御用牧場とそれを取り巻く野馬土手ぐらいで、原っぱだけで何も無い」と言われますが、そんなことは無い、むしろ生活面から見て連続と続く歴史があるわけです。日本の歴史の考え方は世界史があって、日本史、国史、地域史がある。私達は逆に今立っている所がスタート地点だと思っています。

今日お話しいただく中村 勝先生の「小金牧の開墾—北総の夜明け前」ですが、先にご案内したポスター等は「前」を跳び越して「北総の夜明け」となっていました。訂正させて頂きます。小金牧の開墾は柏、東葛地域にとって非常に大きな出来事であったと思います。中村先生はいろいろと活動されている方ですが、紹介は柏市史編さん委員だけでいいよ、とおっしゃるので、そうさせて頂きます。中村先生よろしくお願ひします。(講演会での挨拶より 文責・久川)



松ヶ崎城跡 (08年4月撮影)

06年暮れから北側斜面の倒木、枯れ木は伐採撤去され、間知石が積み上げられています。炭焼き場はそのままです。

08年3月送電線鉄塔下の城跡入り口が舗装整備され拡張されました。城跡下、国道16号際のアサヒ飲料は08年7月操業停止予定です。

06年7月に設置した横断幕は1年半の風雪に耐え、痛みが激しくなったため、役目を終えたと判断し、07年12月16日に撤去しました。

## 平成20年度総会・講演会のお知らせ

日時 平成20年4月27日(日)

場所 さわやか千葉県民プラザ(柏の葉) 3F 中研修室1

日程 10時半~12時 総会

13時~15時半 講演会

「軍隊・兵士と柏—明治から日中戦争—」 講師 上山 和雄氏

(国学院大学教授・元柏市史編さん委員)

会員 無料 会員外 1人500円(資料代)

\*\*\*\* 講演会の詳しい案内は4面にあります \*\*\*\*

### 目次:

講演会抄録

「小金牧の開墾

—北総の夜明け前」

講師 中村 勝氏 2

(柏市史編さん委員)

講演会アンケート報告 2

資料 3

豊四季開拓百年記念碑・碑文

平成19年度活動記録 4

講演会案内 4



## 講演会抄録

### 小金牧の開墾—北総の夜明け前

講師 中村 勝氏(柏市史編さん委員)

旧沼南に17ヶ村、柏に20何ヶ村、利根川沿いに花野井、布施、大津川沿いに増尾と古い村があります。資料は沼南が3万、柏が5万、併せて8万点もの県下でも有数な良質な資料がありますので、柏に歴史が無いわけではありません。

今日は明治維新以降の話をさせていただきますが、「北総」の歴史的特徴は東京から30キロ圏にあり、広大な国有地があったということで、政府は喉から手が出るほど欲しかった土地のはずです。東武野田線、船橋線、北総鉄道線、新京成線などは牧を縦横に走り、常磐新線TX(つくばエクスプレス)は高田台牧を横断しています。TXが出来たとき、さすがに三井は130年前に手に入れた土地の真ん中に電車を走らせた。という感慨を持ちましたが、穿ち過ぎでしょうか？

牧が明治維新以降どうなっていくかという、軍用地、さらに大学用地、団地、鉄道、などですが、成田空港が出来るまで、牧の中、周辺は時の政府の政策によって揺られていく面があります。常盤平団地が出来るとき、開墾した人達もいましたが、なかなか土地を売らない、強制収用する時、どう抵抗したかというと櫓の上に人糞を入れた肥え桶を担ぎ上げて、強制執行に来た役人に上から

掛けた。糞尿闘争は成田が最初ではない。北総は近現代史の中で重要な争点になる土地でもあったと思います。

にせ官軍として処刑された赤報隊幹部の相楽総三(藤代出身)、渋谷総司(鎌ヶ谷出身)、金原忠蔵(小金原町出身)等は『総』の国から来て今俺達は国事をやっている、という意識があったと思います。彼等は農民出身ですから、年貢半減令を建白して受け入れられ、それを掲げていたが、新政府軍にとっては、それが重くなってきたのかもしれない。

彼等を斬ったのは東山道軍で、その1番の親分は京都にいる岩倉具視、その側近をしていたのが北島秀朝、後に開墾局の知事になる人です。その東山道軍にお金を出していた三井の番頭が東山道軍に従軍しています。さらに北島に推薦され三井の北総開墾を担当した市岡晋一郎がいて、人脈がつながっています。赤報隊の中の誰か一人でも開墾局にいたら後の悲劇にはならなかったのでは、と思うのは邪道でしょうか。つまり小金牧の開墾は戊辰戦争の影を引かずっている、と思います。北総の開墾は東京の旧幕臣達を不穏であるので郊外に放逐する目的と、土地を払い下げることによって戦費を調達した政商への見返りでもありました。

二年間ほど牧内の石碑等を調査した時期がありまして、十余二の巖島神社の高田原開墾碑(戦後建の昭和29年8月建之)を見てこの研究をはじめようと思いました。

「当地は元小金原高田台牧也 明治2年より入植開拓せり初期入植者は自作農たるべき筈の処大隈及鍋島等の所有となりて80余年昭和廿二年来の農地改革により初志貫徹すべて入植者の有に帰す 入植者順連名」

皆さんも是非見てください。

先生のお話はこのあと、水が乏しく風が早い原地での開墾は容易なものではなく、東京窮民には無理で逃亡者が続出し、牧近在の出作農民、移住農民が担っていくことになるが、自力開墾したにもかかわらず明治6年の地租改正の際、出作農民、移住農民は小作人にされてしまったこと、三井など37名の旧開墾会社社員への払下地が縄延地を入れて15,000町歩にも及ぶのに地券は6,872町5反であり不当であると、農民たちが起こした長期に渡る大審院までの苦しい裁判闘争の話へと続きます。(文責・久川)

## 講演会アンケート報告

当日配布したアンケートからは概ね今日の講演は聴きたいテーマであった、聞きに来て良かったという回答でしたが、次のような回答もありました。

・江戸時代の小金牧の話だと思って来たが初めて明治時代の事を聞いて興味が湧きました。

(50~60代 我孫子市 女性)

・バックグラウンドの知識があればもっと分かったと思う。柏は恵まれた地域だと思っていたが大変な歴史を有していることが分かった。

(50~60代 柏市 男性)

・専門用語がよく分からなかったので知っていたらもう少し面白かったと思う。

(50~60代 柏市 女性)

・散歩の途中開墾碑の文面を読んだことがありその惨めさにびっくりしたが、その理由が分かったように思います。

(70代 柏市 男性)

・表の読み、開きについていけなかった。

(50~60代 我孫子市 男性)

・現在までの東葛地域の経緯が理解できてよかった。続きを聞きたい。碑文の

内容の比較検証と闘争の終結まで。

(30~40代 柏市 男性)

・テーマが専門的で難しかった。

(50~60代 柏市 男性)

・小金牧開墾の歴史については詳しく知りませんでした。初めて聞いてとても勉強になった。(70代 柏市 女性)

・事前の知識がいくらでも無いと入りにくいテーマ (50~60代 柏市 男性)

その他希望 利根水運や江戸川台から陸軍柏飛行場への引込み線など。



## 資料

### 豊四季開拓百年記念碑・碑文

明治維新の社会変革は、武士と此れに関連する各方面の失業者を族生、兵乱と凶作等に拍車をかけられ、社会不安は限りなく拡大していった。明治維新政府が第1に考慮しなければならぬ問題は、民生の安定であった。政府は失業救済、貧民対策として「不毛地開墾等の業を以て広く窮民に生産を与え候より他無之、先近国より手始めとして下総国小金佐倉等の原野開墾」を採りあげ、小金佐倉牧を廃止し、東京窮民を救い遊休労働力の生産労働力への転換と、耕地拡張生産増加を求め、明治2年民部省に開墾局を設け、三井八郎衛門等36名に基本金20万円を貸出し「御東鞏冥加役」の名目で、両牧の開墾会社を設立させた、政府は此の開墾地積を1万町歩と推定、1万戸の入植を計画し各藩に、募集を依頼し、築地旧備前邸等で授産訓練を行ない「東京窮民7,964人の内農業適宜の者6,461人」を、2年10月より3年8月の間に逐次入植させた。

入植者は「3年間衣食住は勿論万事世話致し、4年目より自分活計を定め一旦会社請負人と相成、開墾入費を10カ年の内に会社に返済致候得ば、会社一般独立農夫」となり、其の後自力新開は地主となれる規程で、割当面積は一人平作地5反家作地5畝、3町歩まで自力開墾割渡しを受けられる筈であった。野付村よりの通い作民は自費開墾であった。会社は一等富民、二等富民、上中下力民、一等富民小作人からなり開墾地は会社への下付で、所有権は社員たる一等富民にあるとされていたのは、入植者の思わざる処であった。

入植者即ち力民以下は掘立長屋で飯米一人一日雑穀4合5勺を給され、その他入費一切は計上され、2カ年にして一人42両の負債が生じた。会社の管理督励苛酷言語に絶し労働過重心身供に疲弊困憊し脱落逃亡が続出した。会社は経営よろしきを得ず、前途暗澹、4年7月政府に7万両の資金借入を願って不許可、5年4月基金返済免除の嘆願等の弥

縫策を弄しながらも、遂に5年5月事業未だ端緒のまま解散するに至った。6年開墾事務は県移管となり、社員は直ちに申請して地券の公布を受けた。地券面6,872町歩と言え、実面積は数倍で後に豊四季で一社員の地券15町歩が、岩倉具視買受時には50町歩あった。力民小作人は開墾地所有権の帰属、債務処理、小作料問題等で会社と紛争を生じ、同年県は残地3,712町歩を開墾者6,497人に対し、一戸宅地5畝耕作地5反の地券を下付したが、7年開墾者は之を不服とし連盟を結び、県農商務省に再三嘆願したが効無く「開墾地所有権獲得の訴訟」を千葉地方裁判所に提出し、一敗地にまみれるや、東京上等裁判所更に大審院と上告を続け33年帝国議会開設を俟つて国会誓願まで行つて至り「全国著名の富商を相手取り権力不適の訴訟しはしは敗れて堯屈せず」と全国の視聴を集めた千葉県政の大問題に発展した、此の20年に及ぶ抗争の為に「住家は雨露を凌ぐまでにて、眷属襁褓を纏い」「畠は枯瘦の色を呈し収穫甚だ寥々」「住する者十中二三を余すに過ぎず、その他悉く四方に離散し」「一戸の人煙みざる所あり」と千葉県令を嘆息させるに至ったか、この時既に分与地は皆無となっていた。翻って入植後一年にして落伍逃散続出し、勤勉実直な者のみが茨の道を切り拓いていった。東京窮民入植2,325戸の中残留1,050戸3,692人、野付村移民と通い作民484戸1,430人、此れ等の人々の血と汗で一歩ずつ開拓が進み、2年10月最初の着手初富から順次に二和、三咲、豊四季、五香六実、七栄、八街、九美上、十倉、十余一、十余二、十余三の村名が立てられた。然し13年には又東京窮民845戸脱落し、16年授産処分を受けた者新田定着農民2,374戸内野付村移民1,180戸、通い作人1,074戸に対し東京窮民は僅か120戸に過ぎなかった。この時豊四季は地積618町歩、東京窮民80戸163人、野付村移民及び通い作人122戸437

人、総て此れ600人であった。

懐うに開拓民か赤手空拳荒蕪の原野に挑み陋屋は風雪を凌ぎ難く弊衣は寒暑に耐え難く箪食豆羹、飢餓線上を彷徨するの時、四面楚歌の中に外部圧力と闘いつつ孜孜として麦陸稲甘藷野菜の栽培に暁暗星を戴く忍苦を重ね葦木釘の副業寒夜深更に精魂を傾け、隣保互助漸くにして盛運の基盤を築いた。3年12月我が先人未来をかけて村名とした豊四季其れは真に美しい平和と幸福を謳っているが、しかし簡単に地上の楽園は到来しなかった。筑波風颯たる広野に病軀を曝し、草蒸す叢林に吾か非力に自ら鞭打ち、伸び行く郷土の将来子孫の行く末をかけて、四季豊かに稔れと念じつつ一鍬一鍬と開拓の努力は連綿百年の星霜を経て現代の繁栄を招来した。滋に百一年の第一歩を踏み出すに当たり、静かに先人の労苦を偲びその教訓を学び、今日への感謝と供に展開する明日への資とする。尚に此の碑を建て、以て永く先人の志を伝える。

昭和48年四月吉日

山野辺南薫 撰並書

(講演会資料より引用しました)

\*\*\*\*\*

#### 開拓碑案内

##### 「豊四季開拓百年記念碑」

所在地 柏市豊四季945の新富近隣センター隣の稲荷時神社内  
行き方 柏駅西口06番バス乗り場「流山駅東口」行き 又は「免許センター」行き「稲荷神社前」下車

##### 「高田原開墾碑」

所在地 柏市十余二 柏駅と柏の葉公園を結ぶ道路と守屋流山線の交差点際の、コンビニ駐車場隣  
行き方 柏駅西口、柏の葉キャンパス駅よりバス便多数あり  
「十余二」下車



## インフォメーション

### 平成19年度活動記録

#### 2007年

- 4/22 平成19年度総会(16人参加)  
講演会(67人参加)
- 4/30 焼き鳥練習
- 5/1・2 炭焼き準備
- 5/3 第5回炭焼き
- 5/13 柏市民活動フェスタ  
展示、焼き鳥販売  
JR柏駅東口Wデッキ上
- 9/11 役員会
- 12/16 松ヶ崎城跡清掃  
看板(横断幕)取り外し

#### 2008年

- 1/20 北小金歴史散策(30人参加)
- 3/28 役員会



1月20日の北小金歴史散策

講師 中山 文人氏  
(松戸市立博物館学芸員)

### 講演会のご案内

#### 軍隊・兵士と柏—明治から日中戦争—

講師 上山 和雄氏

(国学院大学教授・元柏市史編さん委員)

日時 2007年4月27日(日)13時～15時半  
(12時半開場)

場所 さわやか千葉県民プラザ(柏の葉) 中研修室1

会費 会員 無料 会員外1人500円(資料代)

問合せ 04-7155-2351 090-5560-2408  
浦久

明治時代に確立した徴兵制は兵士をどのように徴兵したのか。日清・日露戦争から日中戦争まで、柏出身の兵士はどのように戦死していったか。そして日中戦争時、軍都となった柏には、どのような軍の施設が作られていったか—近代の日本の歴史と柏、柏出身の兵士の運命を、上山和雄氏に語って頂きます。

#### 交通アクセス

柏駅から 西口2番バス乗り場 東武バス「柏の葉公園経由 国立ガンセンター」行き 又は「柏の葉公園」行き 約20分 「柏の葉公園」下車 徒歩1分

東武野田線 江戸川台駅から 東口バス乗り場 東武バス「国立ガンセンター」行き 又は「国立ガンセンター・税関研修所」経由 柏駅西口」行き 約10分 「駒木台北」下車 徒歩5分

つくばエクスプレス 柏の葉キャンパス駅から

西口1番バス乗り場 東武バス「柏の葉公園循環」 約10分 「柏の葉公園」下車 徒歩1分

又は「国立ガンセンター」経由江戸川台駅東口」行き 約10分 「東大西」又は「駒木台北」下車 徒歩5分

自動車での来場 国道16号「十余二工業団地入り口交差点」から約5分 駐車場 最初1時間無料 1時間毎100円

本会は、手賀沼と松ヶ崎城を中心とした、地域の身近な歴史を研究する中で、見失われがちな地域の文化を再認識し、再構築すること、および史跡と周囲の自然環境を一体として捉える『歴史的自然環境』を街づくりに活かすこと、をめざして活動しています。

経済成長とともに急激な開発がなされ、消滅したものが多く千葉県東葛地域の中で、今あるものを良い形で未来に残し、伝えていきたいと思っています。年に数回の史跡見学会、講演会、松ヶ崎城跡の清掃などを行っています。

年会費 2,000円

手賀沼と松ヶ崎の歴史を考える会

事務局 〒277-0835 柏市松ヶ崎791-3

久川 玄二郎

TEL&FAX 04-7134-8833